



じとぜんひろば

No.80 2015年(平成27年)1月1日

地御前地区自治会



地御前漁港の夜明け

平成二十七年元旦



新春を寿ぎ、
謹んでお慶びを
申し上げます

今年には戦後70年を迎え地域の皆様には様々な思いをお持ちの事と思います。

昨年を振り返れば、色々な出来事があった。

全盲作曲家(自称)のゴーストライター騒動にはじまり「STAP細胞」論文のねつ造疑惑、朝日新聞虚誤報問題。

8月には広島市安佐南区八木地域で集中豪雨による大規模な土砂災害で74名の尊い命が奪われた。

また、9月には木曾の「御嶽山」が突然噴火し登山客47名が死亡、戦後最悪の噴石被害の恐ろしさを知らされた。

地殻変動によると思われる災害は11月にも長野県北部地震がスキーのメッカ信州白馬村辺りを襲い大きな被害をもたらしたが、幸いな事に一人の犠牲者も出さず、地域の互助の大切さを教わった。

8月〜10月にかけては、史上最強レベルの大型台風が襲来、各地に人的被害や、深刻な農業被害をもたらした市民生活は大混乱させた。

衆議院解散によるドタバタ選挙。

一方明るい話題は、富岡製糸場の世界遺産登録決定。

ユネスコの世界遺産(無形)

文化財)に「石州半紙」「本美濃紙」「細川紙」の3和紙が登録された。

錦織圭選手の全米オープンテニス準優勝。

日本人3氏のノーベル物理学賞受賞といった大変喜ばしい事もあった。

しかし、11月に入り「昭和の名優」高倉健さん、菅原文太さん、「昭和の棋聖」呉清源さんが後を追うように逝った。

総じて「災い」多き一年であった。自然への畏れを忘れず、日々安穏なることを願い、今年「災い」転じて「福」となるよう祈りたい。

障害のある方も楽しめる「けん玉」を

桃山 徳政 宏一

「けん玉」甘日市の皆さんはどう思われますか。「あゝ子供の玩具じゃね」おそらくそう思われる方が多いのではないのでしょうか。

実はこのけん玉、今、世界的ブームとなっています。海外の子どもから大人まで、知らない人はいないと言っても過言ではない程です。

今では海外で新しい遊びとして、凄い技や、けん玉メーカー、新たな製品やプロ選手

地区の話題

★輝け地御前の星★

地御前在住の河田悠希君(佐伯高2年)がこの度、長崎国体(青年男子)、全日本アーチェリー選手権(リカブ男子)の2大会で優勝した。河田君は、3年前の佐伯中2年で、世界ユース大会にも出場し、将来を期待された選手であった。

高校2年の昨年、前述の成績でこの度、全日本の強化選手選考会でも6名枠に入り、1月下旬からアメリカ・ソルトレイク市の強化合宿に参加、4月のつま恋での世界選手権選考会に備え練習に余念がない。取材した12月12日も海外遠征から帰国し、その足で登校、放課後の練習でや々と取材した次第。来年のリオ、オリンピック出場を目指し頑張っている。河田君の更なる躍進を信じ応援したい。



粉雪舞い散る中練習に励む河田君(12/12撮影)

地御前

自主防災会活動

多発する自然災害、自主防災の重要性が問われている。当地区自主防災会も防災の日に防災訓練。10月21日の学童幼児の避難訓練。また講師に柳迫長三氏(広島県自主防災アドバイザー)を迎え、先の安佐北区三入の「大規模土砂災害の教訓」と題する講演があった。

まとめ、として「自助」「公助」「共助」◇自分の身は自分でまもりましよう◇地域で協力して防災力の向上を目指しましょう◇復旧復興は、私たちの手で、閉められた。

また各地区で救命救急(AED)講習会など行い地区住民の、防災にたいする意識高揚を図っている。



避難所用間仕切りの訓練

敬老会

トピックス

市民センター祭り



眞野市長の挨拶



講演を受講する参加者達



熱心に説明を聞く児童たち

地御前

漁港護岸工事

地御前漁港堤防護岸工事が始まりました。

工事期間…
12月8日〜3月31日
施工時間帯…
昼間8時〜17時



とやみくろ

門松・しめ縄などを
持ち寄り、ご参加ください。

とき…1月11日(日)
正午〜3時頃まで
とろろ…現在調整中につき
後日、掲示板で
お知らせしますので
ご覧下さい。

編集後記

◇昨年のノーベル賞は感慨深い。物理学賞は日本の3氏に与えられた。LEDは身近なもので、分かり易く、授賞式で「LEDは暗闇に光をかざし世界に明かりを与えた」と称賛され、国民とりわけ子どもたちにも夢と希望を与えた。

◇また、平和賞のマララさんのスピーチは後世に伝えられる名スピーチで世界の人々に感動を与えた。

【発行】

地御前市民センター内
地御前地区自治会 広報事業部

まで生まれています。そしてけん玉発祥の地廿日市、日本に新しい文化として逆輸入され、日本でけん玉ブームを巻き起こしています。

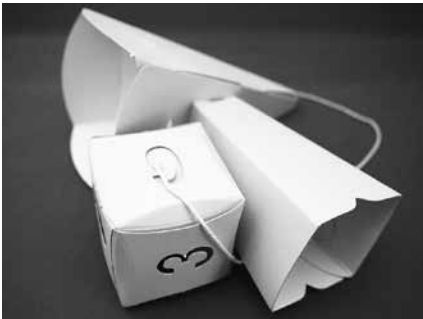
新しい物好きの私は「車いすでけん玉をやってみたい。」そう思いました。けん玉の基本は膝にあります、車いすの私は膝が使えません。やってみて案外難しい、玉が跳ねて失敗続き。簡単に遊び程度に考えていた私ですが「車いすでけん玉、本気でチャレンジしてみるのも楽しいな」そう思いました。

そうして始めたけん玉、地元のけん玉の先生、砂原さんに相談して「障害のある方々でも出来るけん玉をやるう！」と意気投合。そして「全国車いすけん玉倶楽部【夢】」を立ち上げる事になりました。障害の有無に関係なく、小さいお子様も高齢の方々にも楽しんでもらえるように色々工夫して考え、そして新商品として「紙けん玉」



を砂原さんが開発。力の弱い方でも出来るように軽さ30gの紙製のけん玉が生まれました。

これから全国・全世界の多くの方々に楽しんでいただき、みんなで競い、みんなで繋がる。そんな気持ちで毎月、「あいプラザ」で練習会を開催しています。これからは皆さんの地域でも活動できたらと思います。



『全国車いすけん玉倶楽部【夢】』
公式HP

<http://www2.hp-ez.com/hp/whkendama>

健康寿命を延ばそう

桃山 高橋 一寿

健康寿命については昨年の地御前敬老会時、来賓の祝辞にもありました。「健康寿命社会の実現」をテーマとしたテレビ放映もありました。

この番組の内容を簡単にご紹介します。

日本に於ける平均寿命と健康寿命との差は男性9歳、女性12歳。この差を縮めること即ち健康寿命を延ばすには普段の生活の中で実行可能な三つの分野がある。

①運動②食生活③社会参加（人と交わる）この三つがキーポイントとのことでした。①の運動について参考文献を基にして述べます。

筋肉量は20歳がピークで、その後、加齢と共に落ちて行きます。50歳を越えると急にダウンします。普通の生活をしていても一年に1%の割合で減少します。特に、大腿部や腹筋は著しく減少することにより転倒し易くなり↓骨折↓寝たきり↓要介護に繋がります。

筋肉は日常的に体を動かすことにより何歳からでも強化できます。小生は仕事柄、中高年の方に接することが多く、

痛切に感じていることは歩くことが嫌いな人が多いことです。一日10分の歩行から徐々に延ばしても良いし、室内での健康体操でもよろしい。

要は自分に合った運動を見付ける事です。運動することで認知機能の維持にも効果が期待できるようです。自分の健康は自分で守りましょう。

くなるにつれホームシックにかなり悲しくなった。他の2人も未知の世界の旅立ちに興奮していたのですが、すっかり元気をなくしていた。現在の高校一年生だから無理もないかも知れない。釜山から関釜連絡船に乗船、生まれて初めて日本に向かった、船中7月としては珍しく海は荒れていた。船酔いに悩まされた

私達は救命具を枕に横になっていると、海軍軍人に似た制服を着た船員がやって来て大声で「貴様たち命を託した救命具を枕に寝るとは何事か」と怒鳴りつけられた。後年彼と再び会うとは夢にも思わなかった。

初めての母国の土を踏んで、色々新しい発見をしながら垂水航空隊の兵舎にたどり着いた。兵舎の両端の棚に新兵各々の名前が付いた布袋があった。数人の者が自分の名札がついた袋から軍服を取り出し試着していた。私は憧れの七つボタンの制服を見るとホームシックがいっぺんに消えてしまった。

翌日入隊前の最後の身体検査があり正式に決まる。再び家が恋しくなる。視力検査をごまかし不合格で家に帰ろう



当時の予科練生(ウィキペディアより)

地御前大好き

私の家族は今年13才になる洋犬の「ゴールデンレトリバー」と共に生活をしています。どんな状況下でも、毎日、朝夕の2回犬に付き合って散歩に行かなくてはなりません。



いつも同じコースだと、私も犬も飽きるので、5〜6コースを設定し、地区内を歩き回っているいろいろな発見をしています。

約40年、仕事でふるさとを離れていましたが、生まれも育ちも地御前人の私。楽しい事、寂しい事、新しい発見等、いろいろなことが沢山あります。

例えば、子どもの頃、近所の畑で取って食べていた、ミカン・桃・イチジク・柿などの樹木が無くなった。フナ・コイ・鯊なども居た思い

なった。飛行機に乗れなかったのは残念でしたが、先輩搭乗員から経験談を聞かせてもらった。6カ月の教育が終り制服の左腕に飛行兵長と普通科卒業の腕章を付けてもらった。昭和19年4月に空襲を受けた直後の豊橋航行隊に配属、8月15日の終戦となる。

昭和22年6月国鉄に入社。25年6月朝鮮戦争勃発。

9月下旬船舶管理室に転勤。関釜連絡船の徳寿丸、金剛丸で船員として働くことになった。6年程前、私が日本に初めて渡ってきた因縁の船である。

佐世保から釜山へ国連軍の兵士を運んだ。以前私を怒鳴りつけた乗組員たちは、私が船酔いに慣れるまで暖かく指導してくれた。

一航海で500人程の兵士を運ぶ。若く陽気な兵士たちはボーカーに興じたり歌を歌ったり、まるで旅行気分であった。毎回大切な銃を置き忘れる兵士が数人いた。彼らは私物のギターや携帯ラジオはしっかりと手にぶらさげていた。

あの戦争で国連兵士が約3万5千人程戦死したと云われているが、私が見送った彼らの何人が生還できただろうか。

出深い小川も、ほとんど暗渠で覆われ、谷奥の方に行かないと小川のせせらぎも聞けない。小山が有った所にマンシヨン、大きな道路と余りにも変わりすぎて寂しさと懐かしい思い出がフツと・・・足が止まる事も度々あります。

そして一番寂しく思う事は、想い出のある「家」が取り壊され駐車場に、また空き家になっていること。

一昔前は、家と家との間に小さな路地が沢山あり、鬼ごっこ・缶けりで通り抜け、遊び走り廻ったものです。

犬と路地裏など歩き廻って、ふるさと地御前の「空気」を嗅いで、ふるさとの「空気」は世界一旨いから「お前も大きな口を開けて」と、犬に言い聞かせ毎日の散歩を楽しんでいます。

これからも地御前人として健康に気を配り、約40年留守にしたお詫びに少しでもお返しをと何事にも協力し素晴らしい「ふるさと地御前」の為に素晴らしい「棒」に当たるよう「地御前大好き」と言いながら散歩の毎日です。

A・I生

「奇遇」

桃山 石川 益弘

中国大連市で生まれ育った私は昭和18年末、予科練の第一次試験受験のため旅順を訪ねた。ここはロシアが東方進出のため軍港を築いた所で広瀬中佐、乃木大将等による激戦地である。

受験中の合間に旅順港を一望できる二百三高地に登った。翌年4月第二次試験が現在の韓国鎮海で行われた。

ここもロシア東進の朝鮮領の最北端でロシアの軍港があった。当時ロシアの領土拡張はすさまじく日本とも軍事衝突は避けられなかったと思う。左耳に少し欠陥があり不合格となったが翌日試験官にお会いし、再度検査をお願いすると私の情熱を認め検査を少し緩めにして頂き合格となった。

終戦一年前の昭和19年7月15日付けで鹿児島垂水海軍航空隊に入隊が決まり仲間2人と錦州を去ることになる。

学校は夏休みで同級生全員が北滿に勤労奉仕で留守。誰一人見送ってくれる人はなく寂しい出発となった。列車が瀋陽、平城、京城と家から遠

私と鹿屋で話をした先輩も特攻隊で沖縄に出撃して行ったにちがいない、悲しく胸が痛みます。

私が生きていられるのも多くの人々の犠牲と貢献によるものと感謝いたします。

地御前の印象

丸子町 清水 茂



①海と山のある自然豊かな

外宮の街

②自然災害の非常に少ない

地域

③強力な防災施設、

広場を保有している

④欠点はただひとつ

不便なショッピング

2年前に千葉県印西市から地御前に引っ越して来ました。

印西市は関東平野のただっ広い飛行場のような何もない土地で、特に、海を見るためにはわざわざ房総半島の銚子の犬吠埼まで2時間かけて見に行ったものです。

しかし地御前では眼下に海が広がり、海大好き少年だった自分にとっては夢のようで、ものすごい衝撃的な印象です。